



辟雍会通信 No.5

〒184-8501
東京都小金井市貫井北町 4-1-1
東京学芸大学辟雍会
hekiyou@ur-gakugei.ac.jp

ご挨拶

アジサイの花が咲き始め、梅雨を感じる季節になりました。皆様お変わりなくお過ごしのことと存じ上げます。

「コロナ」には、もううんざりされていらっしゃると思いますが、東京都などではまた緊急事態宣言が延長され、沖縄県では感染が急拡大し、小・中・高等学校が休校となる等、なかなか感染症が収束してきません。しかし、ワクチン接種が始まり明るい兆しも見えてきたように思います。会員の皆様の中にも、既に2回のワクチン接種を済ませられた方がいらっしゃることに

思います。大学単位でのワクチン接種も始まるようです。

昨年は、コロナ感染症拡大のため、本会の全国代表者会議を開催できませんでした。この会議を開催でき、支部活動を含めた本会の活動を活発に行える日が早く来ることを祈っています。

皆様、コロナに負けぬよう、どうぞ十分ご自愛ください。

(辟雍会会長 長谷川 正)



化学教室での実験指導

昨年度の大学の授業はコロナの影響で、春学期は4月いっぱい休講となり、授業は5月の連休後から遠隔授業のみで始まりました。学生のみならず、教職員も基本的にはリモートワークで大学には極力いかないようにしていましたが、遠隔授業の準備等で大学に出勤すると、大学構内には人影がほとんど見受けられず、大学が廃墟になったような異常な感覚に襲われた記憶があります。個人的には、これまで遠隔授業を行ったことがなかったので心配でしたが、作成した資料をウェブクラス*にアップする操作が非常に簡便でした。10年前では考えられなかった、情報技術の進歩だと思います。ただ、これまで私は、講義を作成したノートの内容を板書し、解説するという昔からの授業形態をとっていたため、ノートの内容をパワーポイントに転記する操作が大変で、授業開始前の4月から準備を始めたにもかかわらず、13回分の資料作成には7月いっぱいまでかかってしまいました。7月からは、一部対面での授業が認められましたので、



化学教室では1年生対象の化学実験や3年生対象の有機化学実験など専門実験を一部対面で実施することができました。対面で実験の授業を行うことができるようになったのは、学生にとっても教員側にとっても学習効果を考えると喜ばしいことでしたが、当時よく言われた“三密”を避けるためにクラスの人数を半分に分けて、同じ内容の実験を2回行うという教員側にとってはかなり負担となる授業となってしまいました。

今年の春学期は、昨年度中止となった入学式が無事行われました。昨年できなかった2年生の入学式も同じ日に開催されたことは喜ばしいことだと思います。授業に関しては、緊急事態宣言が発令されるまでは教室のキャパシティの二分の一以下の授業の場合は対面での授業が許可され、それ以上の場合は遠隔で行うという授業形態でしたが、東京都に緊急事態宣言が出された後は、基本的には遠隔の授業となりました。ただ、緊急事態宣言が6月20日まで延長されましたが、大学としては6月から4月のように遠隔と対面の両面での授業形態となりました。

化学教室では、実験や実習のような遠隔授業では対面授業に比べて効果が薄いと考えていますので、昨年と同様に実験室に入る学生数を制限しています。化学実験と有機化学実験ではクラスを半分にして今年も実施しています。物理化学実験と無機分析実験は、2実験室を使用することにより、密を避けています。

このように、化学教室では、学生および教員の健康を考え、安全に実験ができるように工夫しながら、コロナ下での大学教育を行っています。

(化学教室准教授 吉原 伸敏)



無機分析実験の様子

*インターネットを利用して、資料の提示、テストの実行、レポートの提出や成績データの集計等が行えるラーニング・マネジメント・システム

附属図書館増設工事完了

小金井市、町のお医者さんフル稼働

コロナワクチン接種「小金井メソッド」

附属図書館の附属中学校側への増設工事が5月末に完了しました。この部分には、教職大学院専用教室もできました。

小金井市の人口は約12万3000人、65歳以上の高齢者は約2万8000人います。1回目の接種完了高齢者が6月1日の時点で既に3割を突破し(全国平均は6%)、その速さが注目されTVのニュース等で取り上げられました。この速さの原因は、市内クリニック等の「町のお医者さん」での接種が約80%と高いため「小金井メソッド」として注目されています。



附属図書館増設部

News